

自動運転ってなんだ？  夏の自由研究に取り組もう！

ニュースレポート



これからの和光市を担う小学生及び中高生以上を対象に、自動運転をテーマにしたワークショップ形式の出前講座を図書館で開催しました！当日は東京大学のプログラムにより、「自動運転ってなんだ？」という疑問に迫るとともに、夏の自由研究に取り組みました。

ワークショップ 開催概要

日時 : 令和8年7月18日(土)
10:00~12:00(小学生対象)
14:00~16:00(中高生以上対象)
場所 : 和光市図書館 会議室
参加者数 : 小学生21名(及び保護者観覧)
中学生及び高校生以上6名
ファシリテータ : 東京大学 中野研究室 大学院生4名



講師：本田隆行氏
(科学コミュニケーター)

子どもたちはグループに分かれて、和光市が抱える“人の移動に関する課題”や、“自動運転”技術の実現が和光市の未来に何をもたらすか、また実現に向けての課題は何か等について話し合うとともに、講師から分かりやすく解説していただき、みんなで理解を深めました。

ワーク1

和光が抱える“人の移動に関する課題”を探そう！



- ①「人が移動する」場面をたくさん思い浮かべてみよう
- ②考えた場面に関する“困りごと”はありませんか？
- ③考えた“困りごと”、根本的な原因は何でしょうか？
- ④どうしたら困りごとをなくせるor減らせるでしょうか？

坂道が多くて、
自転車での移動
は大変！

道路が狭くて移動
しづらい、危険！

移動しやすいよう
に、道路の整備を
進められればよい

バスの行先やルー
トがわかりづらい

環境にやさしい
クルマが必要

マイクロモビリ
ティの普及促進を
期待したい！

歩行者から見て
クルマは怖い！

空飛ぶクルマが
できれば、駐車
場がなくても
大丈夫！

適切な交通手段
選択が必要
(近くは歩く)！

クルマで移動して
も駐車場が少なく
て困ってしまう



ワーク2



自動運転車イスがあると高齢者は便利！

ロボットによる自動運転が実現するといい！

運転手不足解決の切り札になる？

自動運転なら、運転免許がない人でもクルマに乗れる！

坂道が多いから、自動運転自転車があるといい！

“自動運転”技術は、私たちの未来に何を叶えてくれる？

- ①ワーク1で考えた“困りごと”に、「自動運転バス」で解決できるものはある？
- ②自動運転バスを導入...の前にやらないといけないことは？
- ③「自動運転〇〇」、バスのほかにどんなものが作れそう？
- ④その「自動運転〇〇」、心から求めているのはどんな人？
- ⑤「自動運転〇〇」の普及に向けて、事前に必要なことは？
- ⑥「自動運転〇〇」が実現したら...和光はどんなまちになる？

インフラ整備も必要。
電気も必要なので、
環境にやさしい仕組みでないといけない

老若男女誰もが
住みやすく、活
発に動くことが
できる和光市に
なってほしい

事故が起こらな
いか不安。安全
性の確保が必要

お金がかかる。市民が
公平にサービスを受け
ることができるのか？

どこを走らせればよい？
専用の道路が必要？

法整備も欠かせない
(事故や不具合が発生
した際の責任は？)



和光市の取組み

- これまで外環側道にバス専用車線を整備し、自動運転バスの実証を実施
- 将来にわたり市民の円滑な移動手段を確保するため、自動運転の実現を目指して検討する
- 自動運転の仕組みと、実証走行の様子を映像で紹介

自動運転バスの紹介



講師総括

- 社会全体が担い手不足という問題に直面している。運転手不足もこの限りでない。
- 自動運転技術は運転手不足解決の切り札であることは間違いなが、一方で運転手が全く必要ないということではなく、全ての国民にとっての特効薬ではないことへの国民理解も必要。
- 本日のワークショップをきっかけに、自動運転の未来がどうあるべきかについて考えてほしい。



※本講座は東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構と和光市の協定により、東京大学生産技術研究所 松山研究室にて制作されたワークショップ運営支援ツールに基づき実施しました。